

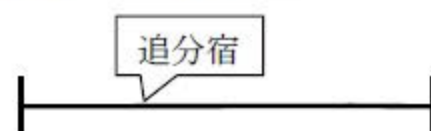


第二十次

追分宿

～北国街道との分岐点～

長野県北佐久郡軽井沢町
日本橋から 158.2 キロ
京都まで 374.0 キロ



追分一里塚

特に周りには何もないのですぐにわかるだろうが、道なりに進むと追分一里塚が見えてくる。最近ではどんどん道が開発されるたびに塚が壊されたりしているが、そんな中でも塚を両側に残している貴重な一里塚だ。ちなみに右の写真が北側の塚。上の写真が右側の塚になる。



追分一里塚

旧脇本陣

追分宿に入ると、中ほどに油屋旅館がある。ここは江戸時代は脇本陣として機能していたが、いまでも旅館として営業していて、多くの文人にも愛されていたという。また、すぐそばには本陣跡の碑もある。



旧脇本陣／油屋

柵形茶屋

宿場の西側の出口付近に柵形茶屋「つがるや」はある。「マス形」と「つがるや」の字が浮彫りになっているのはまたおもしろい。ちなみに、柵形とは宿場町の出入口などでわざと道を直角に曲げることによって外敵の侵入を防ぐために作られたもの。



柵形茶屋つがるや

分去れの道標

国道にでてすぐに分去れ(わかされ)の碑がある。中山道と北国街道の分岐点で、中山道は右の写真だと碑の左を進む。なんでも、旅で親しくなった旅人同士が、違う行く先を前に別れを惜しみともに袂を別って旅を続けた、といわれるのがその名の由来らしい。



分去れの碑

「追分宿」前後の歩みの記録	14:00 追分宿
3/28 6:30 中軽井沢	?
?	15:45 小田井宿